資治通鑑 第 124 巻

令和 3 年 8 月 12 日

【宋紀六】　起玄黓敦牂，盡柔兆閹茂，凡五年。

■南宋、●北魏　（国会図書館デジタルコレクション・続国訳漢文大成．経子史部 第 7 巻 7-269p）

太祖文皇帝中之中元嘉十九年（壬午，４４２年）

●[道教にのめり込む魏主を太子が批判](7-269p)春，正月，甲申（７日），**魏主**は法駕を備え，道壇に詣りて符菉（道教の法籙、修道の免許状）を受け，旗幟は盡く青とす。是れより**帝**は即位する毎に皆な菉を受ける。**謙之**は又た奏して、

「靜輪宮（水經註には道檀の東北、道檀は平城の東の灅水の左）を作り，必ず其の高さをして雞犬を聞かざらしめよ」と，以て**上**は天神に接せんと欲す。**崔浩**は**帝**に勸めて之を為らしめ，功費は萬を計り，年を經るも成らず。太子**晃**は諫めて曰く、

「天人は道殊に，卑高は定分ありて，相い接すべからず，理は必然に在り。今府庫を虚しく（消）耗し，百姓は疲弊し，無益の事を為し，將に安んぞ之を用いるや！必ず**謙之**の言う所の如くならば，請う東山の萬仞之高に因りて，功を為すこと差易からん。」（高いがいいなら、萬仞の山があると）

帝は從わず。

●[沮渠無諱は敦煌を棄て安周に就く]夏，四月，**沮渠無諱**は萬餘家を將いて，敦煌を棄てて西の**沮渠安周**に就く。未だ至らずにして，鄯善王の**比龍**は之を畏れ，其の衆を將いて且末（鄯善の西、新疆ウイグル自治区チェルチェン）に奔り，其の**世子**は**安周**に降る。**無諱**は遂に鄯善に據り，其の士卒は流沙を經て，渴死する者は太半となる。

●**李寶**は伊吾（ハミ）より衆二千人を帥いて敦煌に據り，城府を繕修し，故民を安じ集める。

●[西域の部族移動も活発]**沮渠牧犍**の亡ぶる也（前巻），涼州人の**闞爽**は高昌（トルファン）に據り，太守を自稱す。**唐契**は柔然の逼る所と為り，衆を擁して西に高昌に趨いて，其の地を奪わんと欲す。柔然は其の將の**阿若**を遣わして之を追擊せしめ，**契**は敗死す。**契**の弟の**和**は餘の衆を收めて車師前部王の**伊洛**に奔る。時に**沮渠安周**は横截城に屯し，**和**は攻めて之を拔き，又た高寧、白刃（続の力は違う）の二城を拔き，遣使して魏に降るを請う。

■甲戌（２８日），**上**は疾は愈えるを以て，大赦す。

■[裴方明等は漢中・仇池を平らぐ]五月，**裴方明**等は漢中に至り，**劉真道**と兵を分けて武興、下辯、白水を攻め，皆な之を取る。**楊難當**は建節將軍の**符弘祖**を遣わして蘭皋（続は皐、武興の西北の戍、甘粛省渭川道武都県、現・隴南市武都県）を守らしめ，其の子の撫軍大將軍の**和**をして重兵を將いて後繼と為さ使む。**方明**と**弘祖**は濁水（甘粛省渭川道成県、現・隴南市成県）において戰い，大いに之を破り，**弘祖**を斬る。**和**は退き走り，追って赤亭に至り，又た之を破る。**難當**は上邽に奔る。**難當**の兄の子の建節將軍の**保熾**を獲える。**難當**は其の子の**虎**を以て益州刺史と為し，陰平を守らしめ、**難當**の走るを聞き，引いて兵を還し，下辯に至る。**方明**は其の子の**肅之**をして之を邀擊せしめ，**虎**を擒え，建康に送り，之を斬る。仇池は平らぐ。輔國司馬の**胡崇之**を以て北秦州刺史と為し，其の地に鎮せしむ。**楊保熾**を立てて**楊玄**の後と為し（121 巻六年にあり），仇池を守らしむ。魏人は中山王の**辰**を遣わして**楊難當**を迎えて平城に詣らしむ。秋，七月，**劉真道**を以て雍州刺史と為し，**裴方明**を梁、南秦二州刺史と為す。**方明**は辭して拜せず。

●［魏主支援で楊保宗反撃］丙寅（１１日）**魏主**は安西將軍の**古弼**をして隴右の諸軍，及び殿中の**虎賁**を督さしめ、武都王の**楊保宗**（前巻十六年にあり）と與に祁山より南に入り，征西將軍の漁陽の**皮豹子**をして琅邪王の**司馬楚之**と與に，關中の諸軍を督して散關より西に入り，俱に仇池に會せしむ。又た譙王の**司馬文思**をして洛、豫（洛州・洛陽、豫州・虎牢）諸軍を督して南に襄陽に趨かしめ，征南將軍の**刁雍**をして東に廣陵に趨かしめ，書を徐州に移し，

「**楊難當**の為に仇に報いる」

と稱す。

■甲戌晦（みそか３０日），日之に食有り。

■［沮渠無諱は宋の征西大將軍］**唐契**の**闕爽**を攻める也，**爽**は遣使して詐りて**沮渠無諱**に降り，之と共に**契**を擊たんと欲す。八月，**無諱**は其の衆を將いて高昌に趨く。至るの比（ころ）おい，**契**は已に死し，**爽**は閉門して之を拒む。九月，(7-271p)**無諱**は將衛の**興奴**をして高昌を夜襲わしめ，其の城を屠り，**爽**は柔然に奔る。**無諱**は高昌に據り，其の常侍の**氾俊**を遣わして表を奉じて建康に詣（いた）らしむ。詔して**無諱**を以て都督涼、河、沙三州諸軍事、征西大將軍、涼州刺史、河西王と為す。

●冬，十月，己卯（６日），魏は皇子の**伏羅**を立てて晉王と為し，**翰**を秦王と為し，**譚**を燕王と為し，**建**を楚王と為し，**余**を吳王と為す。

■甲申（１１日），柔然は遣使して建康に詣らしむ。十二月，辛巳（９日），魏の襄城孝王の**盧魯元**は卒す。

■丙申（２４日），魯郡に詔して**孔子**の廟及び學舍を修し，墓側の五戸の課役を蠲（のぞ）き、以て灑掃（さいそう）（掃除、水をそそぎ、塵を払う）に供せしむ。

●［敦煌の李寶は魏の鎮西大將軍］**李寶**は其の弟の**懷達**、**子承**を遣わして表を奉じて平城に詣らしむ。魏人は**寶**を以て都督西垂諸軍事、鎮西大將軍、開府儀同三司、沙州牧、敦煌公と為し，四品以下は製（続は制）を承けて假授するを聽す。

■［劉道產死して、雍州は乱れる］雍州刺史の晉安の襄侯の**劉道產**は卒す。**道產**は善く政を為し，民は其の業を安んじ，小大豐贍（ほうせん）（豊か）なり，是に由りて民間に《襄陽樂の歌》有り。山蠻で前後に制すべからざる者は皆な出で，沔に緣りて村落と為り，戸口は殷盛（極めて盛ん）す。卒するに及び，蠻は追送して沔口に至る。未だ幾くならずにして，群蠻は大いに動き，征西司馬の**朱修之**は之を討つも，利あらず。建威將軍の**沈慶之**に詔して之に代わらしめ，虜の萬餘人を殺す。

●［西域担当の李順を誅殺］**魏主**は尚書の**李順**をして群臣を差次せしめ，賜うに爵位を以てす。**順**は賄を受け，品第するは平かならず。是の歲，涼州人の**徐桀**は之を告げ，**魏主**は怒り，且つ**順**が沮渠氏の庇を保ち，面欺（目の当たりに欺く）して國を誤るを以て，**順**に死を賜る。

太祖文皇帝中之中元嘉二十年（癸未，公元４４３年）

●［北魏は仇地を占領］春，正月，魏の**皮豹子**等は樂鄉に進擊し，將軍の**王奐之**等は敗沒す。魏軍は進んで下辯に至り，將軍の**強玄明**等は敗死す。二月，**胡崇之**は魏と濁水において戰い，**崇之**は魏の擒うる所と為り，餘衆は走りて漢中に還る。將軍の**姜道祖**の兵は敗れ，魏に降り，魏は遂に仇池を取る。**楊保熾**は走る。

●丙午（５日），**魏主**は恆山之陽（みなみ）に如く。三月，庚申（２０日），宮に還る。

●［鮮卑の故地、烏洛侯國の石廟］壬戌（２２日），**烏洛侯**國（黒竜江省の洮兒河北の国）は遣使して魏に如か

しむ。初め，魏之北荒に居る也，石を鑿(ほ)りて廟と為し，烏洛侯の西北に在り，以て其の先を祀る，高さは七十尺，深さは九十歩。**烏洛侯**の使者が魏に至り，

「石廟は具(つぶさ)に在り」（1980 年大興安嶺の鮮卑族の祖廟の石室・嘎仙洞発見、内蒙古自治区東北の加格達(じゃぐだち)奇の北）

と言うに及びて，**魏主**は中書侍郎の**李敞**を遣わして石廟に詣らしめる。祭を致し，祝文を壁に刻みて還る，平城を去ること四千餘里。

（『資治通鑑』巻 108，晋紀 30，孝武帝太元 21 年（396）7 月，魏王拓跋珪称尊号の条に胡三省は注記を加え，「ああ，隋より以後，名称の時に揚がるもののうち，代北の子孫（鮮卑の北魏が都を置いた大同地域に集居した鮮卑など北族の子孫）は，十のうちその六，七を占める。（氏族の高貴さを追求して）出身やその高下を論じることに，そもそも何の益があるであろうか」とあり，隋唐期の指導者層の六，七割が鮮卑系の人々によって占められていたことを指摘。沈括の『夢渓筆談』巻 1，故事 1 において，中国の衣冠は北斉より以来，全く胡服を用いている。窄袖緋緑の短衣，長靴の靴，蹀躞帯などはみな胡服であると述べ，鮮卑系の国家の北斉以降，中国の衣冠が鮮卑の胡服。資料は「三国期段階における烏丸・鮮卑について」川本芳昭 2009）

●［仇地の楊文德自立］魏の河間公の**齊**と武都王の**楊保宗**は雒（駱）谷に對鎮し，**保宗**の弟の**文德**は**保宗**を說き，(7-272p) 險を閉じて自ら固め以て魏に叛せ令む。或るは以て**齊**に告げ，夏，四月，**齊**は**保宗**を誘いて執り，平城に送り，之を殺す。前の鎮東司（軍司か司馬の誤り）の**符達**、征西從事中郎の**任朏**等は遂に舉兵して**楊文德**を立てて主と為し，白崖（四川省嘉陵道昭化県、現・広元市元壩区）に據き，兵を分けて諸戍を取り，進みて仇池を圍み，自ら征西將軍、秦、河、梁三州牧、仇池公と號す。

■甲午（２４日），皇子の**誕**を立てて廣陵王と為す。

●丁酉（２７日），魏は大赦す。

●己亥（２９日），**魏主**は陰山に如く。

●［魏の皮豹子は仇池進攻］五月，魏の**古弼**は上邽、高平、岍（胡三省にゞか、魏書古弼傳に沂?）城の諸軍を發して**楊文德**を擊ち，**文德**は退走す。**皮豹子**は關中の諸軍を督して下辯に至り，仇池は圍を解くと聞き，還らんと欲す。**弼**は人を遣わして**豹子**に謂って曰わしむ、

「宋人は敗を恥じ，必ず將に復た來たらんとする。軍の還るの後，再舉するは難しと為す，兵を練り力を蓄えて以て之を待つに如かず。秋冬を出でずして，宋師は必ず至らん。逸を以て勞を待てば，克たざる無き矣。」

豹子は之に從う。魏は**豹子**を以て仇池の鎮將と為す。

●［楊文德は遣使して征西大將軍］**楊文德**は遣使して來りて援を求む。秋，七月，癸丑（１４日），詔して**文德**を以て都督北秦、雍二州諸軍事、征西大將軍、北秦州刺史、武都王と為す。**文德**は葭蘆城（武都の東南）に屯し，**任朏**を以て左司馬と為す。武都、陰平の氐は多く之に歸す。

■［仇池問題で裴方明誅殺］甲子（２５日），前雍州刺史の**劉真道**、梁、南秦二州刺史の**裴方明**は，仇池を破るとき金寶及び善馬を減匿するに坐して，獄に下されて死す。

●［魏は柔然征伐］九月，辛丑（３日），**魏主**は漠南に如く。甲辰（６日），輜重を捨て，以て輕騎にて柔然を襲う。軍を分けて四道と為す。樂安王の**范**、建寧王の**崇**は各々十五將を統べて東道より出で，樂平王の**丕**は十五將を督して西道より出で，**魏主**は中道より出で，中山王の**辰**は十五將を督して後繼と為す。

●［柔然の營中塵盛を太子晃は指摘、以後軍國大事を相談す］**魏主**は鹿渾谷（察哈爾(ちやはる)特別区域蘇尼特(すにと)部内、内蒙古自治区蘇尼特(すにと)右旗）に至り，**敕連可汗**に（遭）遇す。太子の**晃**は**魏主**に言って曰く、

「賊は大軍の猝(にわ)かに至るを意(おも)わず，宜しく其の備えざるを掩(おそ)いて，速(すみや)かに進みて之を擊つべし。」

尚書令の**劉絜**は固く諫め，以て為す、
「賊營の中は塵は盛んにて，其の衆は必ず多く，出でて平地に至れば，圍む所と為るを恐る。如からずんば諸軍の大いに集まるを須ちて，然る後に之を擊つに如かず。」
晃は曰く、
「塵之盛んなる者は，軍士の驚き怖れ擾亂の故に由る也，何をか營上の塵此れ有るを得ん乎！」
魏主は之を疑い，急に擊たず。柔然は遁り去る。追って石水（綏遠特別区域四子部落、内蒙古自治区四子王旗、ドルボド）に至り，及ばずして而して還る。既に而して柔然の候騎を獲たるに曰く、
「柔然は魏軍の至るを覺えず，上下は惶駭し，衆を引いて北に走り，六七日を經て，追う者無きを知り，始めて乃ち徐行す。」
魏主は深く之を恨む。是れより軍國の大事は，皆な**太子**と之を謀る。
■［司馬楚之は驢耳の失うから柔然来襲を予期］**司馬楚之**は別に兵を將いて軍糧を督し，鎮北將軍は**封沓**は亡げて柔然に降り，(7-273p)柔然を説いて**楚之**を擊ちて以て軍食を絶た令む。俄に而して軍中に驢耳を失うと告げる者有り，諸將は其の故を曉る莫し。**楚之**は曰く、
「此れは必ず賊が奸（続は姦）人を遣わして營に入り覘き伺わしめ，驢耳を割いて以て信と為す耳。賊は至るは久しからず，宜しく急いで之が備えを為すべし。」
乃ち柳を伐りて城と為し，水を以て之を灌し，凍ら令む。城立ちて而して柔然至り，冰は堅く滑り，攻める可からずして，乃ち散り走る。
●［楊文德反す］十一月，將軍の**姜道盛**は**楊文德**と衆二萬を合して魏の濁水戍を攻めて，魏の**皮豹子**、河間公の**齊**は之を救い，**道盛**は敗死す。
●甲子（２７日），**魏主**は還り，朔方に至り，下詔して皇太子に萬機に副理し，百揆を總統せ令む。且つ曰く、
「諸々の功臣は勤勞して日久しく，皆な當に以て爵して第に歸り，時に隨いて朝に請い，**朕**前にて饗宴し，道を論じ謨を陳べて而して已むべし，復た劇職を以て煩わすは宜しからず。更に賢俊を舉げて以て百官に備えよ。」
十二月，辛卯（２５日），**魏主**は平城に還る。

太祖文皇帝中之中元嘉二十一年（甲申，公元４４４年）

■春，正月，己亥（３日），**帝**は藉田を耕し，大赦す。
●壬寅（６日），魏の**太子**は始めて百揆を總べ，侍中、中書監の**穆壽**、司徒の**崔浩**、侍中の**張黎**、**古弼**に命じて**太子**を輔けて庶政を決せしめ，上書する者は皆な臣を稱し，儀は表と同じ。
●［魏の太子補佐の古弼］**古弼**の人と為りは，忠慎質直なり。嘗て上谷の苑囿が太だ廣きを以て，太半を減じて以て貧民に賜うを乞い，入りて**魏主**に見みえ，其の事を奏さんと欲す。**帝**は方に給事中の**劉樹**と圍棋し，志は**弼**に在らず。**弼**は侍して坐するに良く久しく，陳聞するを獲ず。忽ちに起ちて，卒に**樹**の頭を手（続は捽み）にし，床に掣下（押さえつけ）し，其の耳を搏ち，其の背を毆り，曰く、
「朝廷の治まらざるは，實に爾之罪あり！」
帝は容を失い，棋を捨てて曰く、
「奏事を聽かざるは，**朕**之過ち也，**樹**は何の罪かあらん！之を置け！」

弼は具に狀を以て聞し，**帝**は皆な其の奏を可とす。**弼**は曰く、
「人臣と為りて禮無きは此くに至る，其の罪は大なり矣！」
出でて公車に詣り，冠を免ぎ徒跣して罪を請う。**帝**は召し入れ，謂って曰く、
「吾は聞く社を築くの之役は，蹇蹶（跋蹇して顛蹶す、足で踏み地を固める）し而して之を築き，端冕（天子の玄衣と大冠を着る）し而して之に事え，神は之に福を降すなり。然らば則ち卿は何の罪有るや！其の冠履して職に就け。苟しくも以て社稷を利す有り、百姓に便なる可き者は，力を竭くして之と為せ，顧慮する勿かれ也。」
●［太子の農業政策］**太子**は民に稼穡（植付収穫、農業）を課し，牛無き者をして人の牛を借りて以て耕種せ使め，而して之が為に田を芸りて以て之を償わしめ，凡そ耕種二十二畝に而して七畝を芸りし，大略は是を以て率と為す。民に各々姓名を田首に標さ使め，以て其の勤惰を知り，飲酒遊戯する者を禁じる。是に於いて墾田は大いに増す。

【北魏の仏教弾圧と道教優遇】

●［魏の仏教弾圧方針］戊申（１２日），**魏主**は詔す、
「王、公以下庶人に至るまで，私に沙門、巫覡（巫女、男の覡）を家に於いて養う者有れば，(7-274p)皆な使わして官曹に詣らしめよ。二月十五日を過ぎて出ずば，沙門、巫覡は死，主人の門は誅せん。」
庚戌（１４日），又た詔す、
「王、公、卿、大夫之子は皆な太學に詣れ，其れ百工、商賈之子は，當に各々父兄之業を習い，私に學校を立てるを得る毋かれ。違える者は，師は死，主人の門は誅せん。」
●［対柔然政策で劉絜と崔浩の対立、劉絜弑逆］二月，辛未（６日），魏の中山王の**辰**、内都坐大官（中都大官・外部大官・都座大官を置き、折獄を掌る、三都座）の**薛辨**、尚書の**奚眷**等八將は柔然を擊つに期後れるに坐して，都南に於いて斬られる。
●初め，魏の尚書令の**劉絜**は，久しく機要を典り，寵を恃み自ら專らとし，**魏主**は心に之を惡む。將に柔然を襲わんと欲するに及び，**絜**は諫めて曰く、
「蠕蠕は徙を遷して常無く，前に者は師を出だして，勞し而して功無し。農を廣げ穀を積み以て其の來たるを待つに如かず。」
崔浩は固く**魏主**に行くを勸め，**魏主**は之に從う。**絜**は其の言の用いざるを恥じて，魏の師の敗れるを欲す。**魏主**は諸將と期して鹿渾谷に會せんとし，**絜**は詔を矯げて其の期を易える。**帝**は鹿渾谷に至り，柔然を擊たんと欲し，**絜**は之を諫止し，諸將を待た使む。**帝**は鹿渾谷に六日留まり，諸將は至らず，柔然は遂に遠く遁れ，之を追いて及ばず。軍は還り，漠中を經て，糧は盡き，士卒は多く死す。**絜**は陰に人をして魏軍を驚か使め，**帝**に勸めて軍を委てて輕くして還らしめ，**帝**は從わず。**絜**は軍を出して功無きを以て，**崔浩**之罪を治せんと請う。**帝**は曰く、
「諸將は期を失い，賊に遇えども擊たず，**浩**には何の罪ある也！」
浩は**絜**の矯詔の事を以て**帝**に白し，**帝**は五原に至り，**絜**を收め，之を囚える。**帝**之北行する也，**絜**は私に親する所に謂って曰く、
「若し車駕返さざれば，吾は當に樂平王を立てん。」
絜は尚書右丞の**張嵩**の家に圖讖有るを聞き，問いて曰く、
「**劉氏**は應に王として，國家の後を繼ぐへし，吾が姓名は有るや否や？」

嵩は曰く、
「姓有れども名は無し。」
帝は之を聞き，有司に命じて窮治せしめ，**嵩**の家を索し，讖書を得る。事は南康公の**狄鄰**に連なり，**絜**、**嵩**、**鄰**は皆な三族を夷(たいら)げ，死者は百餘人。**絜**は勢要に在り，好んで威福を作り，諸將は敵を破り，得る所の財物は皆な與に之を分ける。既に死し，其の家を籍するに，巨萬を財す。**帝**は之を言う毎に，則ち切齒する。

●［樂平戾王丕は憂卒］癸酉（８日），樂平の戾王の**丕**は憂を以て卒す。初め，**魏主**は白台（泰常二年秋七月乙酉、嗣は平城の南に築く、高二十丈）を築き，高は二百餘尺。**丕**は夢で其の上に登り，四顧して人を見ず，術士の**董道秀**に命じて之を筮(ぜい)せしめ，**道秀**は曰く、
「大吉なり。」
丕は默して喜色有り。**丕**の卒するに及び，**道秀**は亦た坐して市に棄てる。**高允**は之を聞き，曰く、
「夫れ筮者(は)皆な當に爻(こう)象（爻は、易の卦の記号。(－)（--）の２種。経は前者を剛、後者を柔、伝では陽、陰とする。陽爻と陰爻は対立する二面性、陽爻は男性・積極性、陰爻は女性・消極性。三爻により八卦。事物の様々側面を説明）に依附し，忠孝を以て勸めるべし。**王**之**道秀**に問う也，**道秀**は宜しく曰う『高を窮して亢と為す』。《易》に曰く『亢龍は悔い有り。』、又た曰く『高く而して民無し。』皆な不祥也，『王は以て戒(いまし)めざる可からず。』此くの如くならば，則ち王は上に安じ，身は下に全くす矣。**道秀**は之に反するなり，其の死は宜(うべ)なり也。」(7-275p)
●庚辰（１５日），**魏主**は盧に如（魏書原文に如、続などは幸）く。
■己丑（２４日），江夏王の**義恭**は位を太尉に進められ，司徒を領す。
■庚寅（２５日），侍中、領右衛將軍の**沈演之**を以て中領軍と為し，左衛將軍の**范曄**を太子の詹事と為す。
■辛卯（２６日），皇子の**宏**を建てて建平王と為す。
●三月，甲辰（９日），**魏主**は宮に還る。
●癸丑（１８日），**魏主**は司空の**長孫道生**を遣わして統萬に鎮せしむ。
●夏，四月，乙亥（１１日），魏の侍中、太宰、陽平王の**杜超**は帳下に殺される所と為る。
●［魏の北部の反乱討伐］六月，魏の北部の民は立義將軍の衡陽公の**莫孤**を殺し，五千餘落を帥いて北に走る。兵を遣わして之を追擊せしめ，漠南に至り，其の渠帥を殺し，餘は冀、相、定の三州に徙して營戸（屯田に従う家）と為す。
●［吐谷渾王の慕利延と叱力延の争い］吐谷渾王の**慕利延**の兄の子の**緯世**は魏の使者と魏に降らんと謀り，**慕利延**は之を殺す。是の月，**緯世**の弟の**叱力延**等八人は魏に奔り，魏は**叱力延**を以て歸義王と為す。
●**沮渠無諱**は卒し，弟の**安周**は代わりて立つ。

●［魏の崔浩の中国化政策開始］魏は中國に入って以來，頗る古禮を用い天地、宗廟、百神を祀ると雖も，而して猶ほ其の舊俗に循じ，胡神を祀る所甚だ衆なり。**崔浩**は祀典に合する者五十七所を存し，其の餘の復（続は複）重するもの及び小神は悉く之を罷めんと請う。**魏主**は之に從う。
●秋，七月，癸卯（１０日），魏の東雍州刺史の**沮渠秉**は反を謀り，伏して誅す。
●［尚書令の古弼の直言］八月，乙丑（３日），**魏主**は河西に畋し，尚書令の**古弼**は留守す。詔して肥馬を以て獵騎に給せしめ，**弼**は悉く弱者を以て之に給す。**帝**は大いに怒りて曰く、
「筆頭奴は敢えて**朕**を裁量するか！**朕**は台に還れば，先ず此の奴を斬らん！」

弼の頭は鋭にして，故に**帝**は常に筆を以て之を目す。**弼**の官屬は惶怖し，並せて坐して誅せられんを恐れる。**弼**は曰く、
「吾は人臣と為り，人主をして游畋に盤(たの)しませざるは，其の罪は小なり。不虞に備えずして，軍國之用を乏しくするは，其の罪は大なり。今蠕蠕は方に強く，南寇は未だ滅びず，吾は肥馬を以て軍に供し，弱馬を獵に供し，國の為に遠く慮り，死すると雖も何の傷まんや！且つ吾は自ら之を為し，諸君之憂に非ざる也。」
帝は之を聞き，歎じて曰く、
「臣有る此くの如きは，國之寶也！」
衣一襲，馬二匹，鹿十頭を賜う。
●［収穫は速やかに行うべし］它日，**魏主**は復た山北に畋す，麋鹿數千頭を獲る。詔して尚書に牛車五百乗を發して以て之を運ばしむ。詔使は已に去り，**魏主**は左右に謂って曰く、
「**筆公**は必らず我と與にせず，汝が輩は自ら馬を以て之を運ぶに如かず。」
遂に還る。(7-276p) 百餘里を行き，**弼**の表を得て曰く、
「今秋穀懸(はるか)に黄となり，麻菽(ましゅく)（麻、豆）は野に布き，豬鹿は竊食す。鳥雁は費侵し，風雨の耗する所，朝夕は三倍（夕の収めるは朝の得失は三倍、収穫は速やかに載せるべし）。矜（憐れむ、慎む）緩を賜るを乞い，收載を得さ使めん。」
帝は曰く、
「果たして吾の言の如し，**筆公**は社稷之臣と謂う可きか矣！」
●**魏主**は員外散騎常侍の**高濟**を使わして來聘せしむ。

■［義宣を荊州刺史とする経緯］戊辰（６日），荊州刺史の衡陽王の**義季**を以て征北大將軍、開府儀同三司、南袞州刺史と為し，南譙王の**義宣**を以て荊州刺史と為す。初め，**帝**は**義宣**が才あらずを以て，故に用いず。**會稽公主**（高祖の長女）は屢々以て言を為し，**帝**は已むを得ず之を用いる。先に中詔（中より出て門下を通さず、手詔）を賜わりて之を敕(いまし)めて曰く、
「**師護**（義季の小字）は西に在る久しきを以て，比(このごろ)（しきりに）表して還るを求め，今聽許して，汝を以て之に代えん欲す。**師護**は殊に（功）績無きと雖も，己を潔くして用を節し，懷を通じて物を期し，群下を恣(ほしいまま)にせず，聲は西土に著(あらわ)れ，士庶の安んずる所と為り，論者は乃ち未だ之を遷すを議せず。今之回換は，更に汝が**師護**の年時が一輩なるが為に，各々其の能を試さんと欲す。汝は往きて，脱(も)し一事の之に減ずる者有れば，既に西夏（江左の六朝、荊楚を以てす）に於いて交々巨礙（大きな妨げ）有り，遷代之譏(そしり)は，必ず責めを吾に歸さん矣。此の事は亦た勉め易き耳，人をして復た評論を生ま使めるを為す無かれ也！」
義宣は鎮に至り，勤めて自ら厲を課し，事は亦た理を修める。
庚辰（１８日），**會稽長公主**は卒す。

●［魏の吐谷渾征伐］吐谷渾の**叱力延**等は魏に師を請い、以て吐谷渾王の**慕利延**を討たんとし，**魏主**は晉王**の伏羅**をして諸軍を督して之を擊た使む。
●九月，甲辰（１２日），**沮渠安周**を以て都督涼、河、沙三州諸軍事、涼州刺史、河西王と為す。
●［柔然の敕連可汗は卒、處羅可汗立つ］丁未（１５日），**魏主**は漠南に如き，將に柔然を襲わんとし，柔然の**敕連可汗**は遠く遁げ，乃ち止む。**敕連**は尋(つ)いで卒し，子の**吐賀真**は立ち，**處羅可汗**と號す。

●［魏は吐谷渾に勝つ］魏の晉王の**伏羅**は樂都に至り，兵を引いて間道より吐谷渾を襲い，大母橋に至る。吐谷渾王の**慕利延**は大いに驚き，逃げて白蘭に奔り，**慕利延**の兄の子の**拾寅**は河西に奔る。魏軍は斬首すること五千餘級，**慕利延**の從弟の**伏念**等は萬三千落を帥いて魏に降る。

■冬，十月，己卯（１７日），左軍將軍の**徐瓊**を以て袞州刺史と為し，大將軍參軍の**申恬**（388-456）を冀州刺史と為す。袞州を徙して須昌（澎城→山東省東臨道東平県の西北、現・泰安市東平県）に鎮せしめ，冀州を歴下（歴城、山東省濟南道歴城県、現・済南市歴城区・歴下区）に鎮す。**恬**，**謨**之弟也。

●十二月，丙戌（２５日），魏主は平城に還る。

●是の歳，沙州牧の**李寶**は魏に入朝し，魏人は之を留め，以て外都の大官と為す。

■［何承天は元嘉歴を撰］太子の**率**更令の**何承天**《元嘉新歴》を撰し，表して之を上（たてまつ）る。月食之沖（続は衝、日と月の相対す）を以て日の所在を知る。(7-277p)又た中星を以て之を檢じ，堯の時には冬至に日は須女（女宿）の十度に在り，今は斗（北斗星）の十七度に在るを知る。又た景（影）を測りて二至を校（かんが）えるに，差は三日有餘なり，今之南至には日は應に斗の十三四度に在るを知る。是に於いて更に新法を立て，冬至は上に徙ること三日五時に，日之所在は，舊より移ること四度。又た月に遲疾有り，前歴は朔を合わせるに，日（欠、補充）月食は朔望に在らず。今皆な盈縮を以て其の小餘（日に満たない分数）を定め，以て朔望之日を正す。詔して外に付して之を詳（つまびら）かにせしむ。太史令の**錢樂之**等は奏す、

「皆な**承天**の上る所の如く，唯だ月に頻三大（大の月が三連続），頻二小（小の月の連続）有るは，舊法に比して殊に乖異と為り，謂（おも）うに宜しく舊に仍るべし。」

詔して可となす。

太祖文皇帝中之中元嘉二十二年（乙酉，公元４４５年）

■［新暦の実施］春，正月，辛卯（１日）朔，始めて新歴を行う。初め，漢の京房は十二律の中呂(6番目)の上に黄鐘を生ずるに，九寸に滿たざるを以て，更に演（の）べて六十律と為す。**錢樂之**は復た演べて三百六十律と為し，日に一管に當てる。**何承天**は議を立て，以て為す、

「上下の相い生じ，三分して其の一を損益するは，蓋し古人の簡易之法にして，猶ほ古歴の周天三百六十五度四分度之一の如き也。而るに京房は悟らず，謬（あやま）りて六十と為す。乃ち更に新率を設け，林鐘の長さは六寸一厘なれば，則ち中呂より還りて黄鐘を得，十二旋宮，聲韻は失う無し。」

■壬辰（２日），武陵王の**駿**を以て雍州刺史と為す。**帝**は關、河を經略せんと欲し，故に**駿**を以て襄陽に鎮せしむ。

●**魏主**は散騎常侍の**宋愔**をして來聘せ使む。

●二月，**魏主**は上黨に如き，西して吐京（山西省河東道石樓県、現・呂梁市石楼県）に至る，討ちて叛胡を徙し，出して郡縣に配す。

■甲戌（１４日），**皇禕**を立てて東海王と為し，**昶**を義陽王と為す。

●三月，庚申（四月なら１日），**魏主**は宮に還る。

●魏は詔す、

「諸々疑獄は皆な中書に付け，經義を以て量決せしむ。」

●［魏の吐谷渾侵攻］夏，四月，庚戌（五月なら２２日），**魏主**は征西大將軍の高涼王の**那**等を遣わして，

吐谷渾王の**慕利延**を白蘭に撃たしめ，秦州刺史の代人の**封敕文**、安遠將軍の**乙烏頭**をして**慕利延**の兄の子の**什歸**を枹罕に於いて撃たしむ。

●［**鄯善が西域道を封鎖し、魏は討つ**］河西之亡びる也，鄯善人は其の地が魏と鄰りするを以て，大いに懼れ，曰く、

「其の使人を通じて，我の國の虚實を知らしめば，亡を取ること必ず速（すみやか）かならん。」

乃ち魏の道（西域との通行路）を閉斷し，(7-278p)使者の往來は，輒ち之を抄却（しょうきょう）（続は鈔劫、涼奪）す。是に由りて西域は通ぜざる者數年なり。**魏主**は散騎常侍の**萬度歸**をして涼州以西の兵を發して鄯善を撃た使む。

●六月，壬辰（５日），**魏主**は北巡す。

■**帝**は魏を伐たんと謀り，南豫州（高祖は淮東を分けて歴陽に治す）を罷めて豫州（淮西、壽陽。汝南に治す）に入れる。辛亥（２４日），南豫州刺史の南平王の**鑠**を以て豫州刺史を為す。

■秋，七月，己未（２日），尚書僕射の**孟顗**を以て左僕射と為し，中護軍の**何尚之**を右僕射と為す。

■［**武陵王駿・沈慶之・柳元景は沔の諸蠻を討つ**］武陵王の**駿**は將に鎮に之かんとし，時に沔（水）緣の諸蠻は猶ほ寇（あだ）と為り，水陸は梗礙（きょうがい）（塞ぐ妨げる）す。**駿**は軍を分けて撫軍中兵參軍の**沈慶之**を遣わして掩擊せしめ，大いに之を破る。**駿**は鎮に至り，蠻は驛道を斷ち，隨郡（湖北省江漢道隨県、現・隨州市隨県）を攻めんと欲す。隨郡太守の河東の**柳元景**は募りて六七百人を得て，邀擊し，大いに之を破る。遂に諸蠻を平らげ，七萬餘口を獲る。湄山（隨郡にあり）の蠻は最も強く，**沈慶之**は之を討ち平らげ，三萬餘口を獲り，萬餘口を建康に徙す。

●吐谷渾の**什歸**は魏軍の將に至らんとするを聞き，城を棄てて夜遁げる。八月，丁亥（１日），**封敕文**は枹罕に入り，其の民の千家を分けて徙して上邽に還り，**乙烏頭**を留めて枹罕を守らしむ。

●［**萬度歸は敦煌に至り西域は復た通ず**］**萬度歸**は敦煌に至り，輜重を留め，輕騎五千を以て流沙を度り，鄯善を襲う。壬辰（６日），鄯善王の**真達**は面縛して出でて降る。**度歸**は軍を留めて屯守せしめ，**真達**と與に平城に詣り，西域は復た通ず。

●［**柔然の餌**］**魏主**は陰山之北に如き，諸州の兵三分之一を發して，各々其の州に於いて戒嚴し，以て後命を須（ま）たしめる。諸種の雜民五千餘家を北邊に徙し，北に就きて畜牧せ令め，以て柔然の餌とする。

●［**慕利延は逃亡して于闐に入る**］壬寅（１６日），魏の高涼王の**那**の軍は寧頭城（白蘭の北、青海の西北）に至り，吐谷渾王の**慕利延**は其の部落を擁して西に流沙を度る。吐谷渾の**慕瑰**之子の**被囊**は逆えて戰い，**那**は之を撃破す。**被囊**は遁げ走り，中山公の**杜豐**は精騎を帥いて之を追い，三危（敦煌の南）を度り，雪山に至り，**被囊**及び吐谷渾の**什歸**、**乞伏熾磐**之子の**成龍**（赫連定の敗で吐谷渾に没す）を生きて擒とし，皆な平城に送る。**慕利延**は遂に西の于闐に入り，其の王を殺し，其の地に據り，死者は數萬人。

■［**宋の諸子の教育**］九月，癸酉（１７日），**上**は衡陽王の**義季**を武帳岡（建康の廣漠門外の宣武場にあり、行宮殿の便坐をその上な置く）に於いて餞す。**上**は將に行かんとし，諸子に敕して且（しばら）く食う勿からしむ，會するに至りて設ける所の饌、日旰（く）（暮）れるまで，至らず，饑（空腹）色有り。**上**は乃ち謂って曰く、

「汝が曹は少（わか）くして豐佚（ほういつ）に長じ，百姓の艱難を見ず。今は汝が曹に饑苦有るを識り，節儉するを以て物を御するを知ら使むる耳。」(7-279p)

■［**高祖の教えは良し**］**裴子野**は論じて曰く、

「善なる乎**太祖**之訓也！夫れ侈りは餘り有るに於いて興こり，儉は不足に於いて生ずる。其の隱約（不明顯。猶ほ潛藏と言うべし）を欲すれば，貧賤に若くは莫し。其の險限（続は難）を習えば，以て使いに任じるに利あり。其の情偽に達すれば，以て躬ずから臨み易し。**太祖**が若し能く此の訓に率う也，其の志操（主義を固く守る意志）は難く，其の禮秩（宮廷の序列）は卑しくし，教は成り德は立ち，然る後に政事を以て授ければ，則ち怠る無く荒む無く，之を九服（周制）に於いて播く可し矣。」

■**高祖**は本枝を固めるを思い，襁褓（むつき、おしめ）を崇め樹てる（太祖が幼少な皇子を重職に任じたこと）。後世は遵守し，迭に方岳に據る（義眞・義康・義恭・義宣を各方面にやる）。泰始之初め，升明之季に及ぶ乎（続は無し），咽を衾衽（被子和卧席）に絶つ者動もすれば數十人（明帝は孝武の諸子を殺し、宋・斉禅譲の際に蕭氏・劉氏を夷らげるをいう）。國之存亡は，既に是れに系わらず，早に民上に肆にするは，善く誨えるに非らざる也。

●［盧水胡の蓋吳の大反乱と討伐］魏の民間に訛言す、

「魏を滅ぼす者は吳なり」

盧水の胡の**蓋吳**は衆を聚めて杏城にて反し，諸種の胡は爭いて之に應じ，衆は十餘萬有り，其の黨の**趙綰**を遣わして來たりて上表して歸る。冬，十月，戊子（３日），長安の鎮の副將の**拓跋紇**は衆を帥いて**吳**を討ち，**紇**は敗れて死す。**吳**の衆は愈々盛んにして，民は皆な渭を渡り，南山（長安の南）に奔る。**魏主**は高平の敕勒騎を發して長安に赴かしめ，將軍の**叔孫拔**に命じて幷、秦、雍の三州の兵を領攝して渭北に屯せしむ。

●十一月，魏は冀州の民を發して碻磝の津に浮橋を造る。

●**蓋吳**は別部の帥の**白廣平**を遣わして西して新平，安定を掠ましめ、諸胡は皆な衆を聚めて之に應ず。又た兵を分けて東して臨晉已東（続などの巴東は間違い）を掠め，將軍の**章直**は擊ちて之を破り，河で溺死する者は三萬餘人。**吳**は又た兵を遣わして西に掠めて長安に至らしめ，將軍の**叔孫拔**は與に渭北に戰い，大いに之を破り，斬首すること三萬餘級なり。河東の蜀（蜀人の河東にいる者）の**薛永宗**は衆を聚めて以て**吳**に應じ，襲いて聞喜（山西省河東道聞喜県、現・運城市聞喜県）を擊つ。聞喜縣は兵仗無く，令は憂惶して計は無し。縣人の**裴駿**は鄉豪を帥厲して之を擊ち，**永宗**は引いて去る。

●**魏主**は**薛謹**之子の**拔**に命じて宗、鄉（宗族・鄉人）を糾合し，河際にて壁をなし，以て二寇（蓋吳・薛永宗）の往來之路を斷たしむ。庚午（１５日），**魏主**は殿中尚書の**拓跋處直**等をして二萬騎を將いて**薛永宗**を討たしめ，殿中尚書の**乙拔**をして三萬騎を將いて**蓋吳**を討たしめ，西平公の**寇提**をして萬騎を將いて**白廣平**を討たしむ。**吳**は自ら天台王と號し，百官を署置す。辛未（１６日），**魏主**は（陰山より）宮に還る。

●魏は六州（冀定相幷幽平）の驍騎二萬を選び，永昌王の**仁**、高涼王の**那**をして分けて之れの將とし，(7-280p)二道と為し，淮、泗以北を掠め，青、徐之民を徙して以て河北を實たす。癸未（２８日），**魏主**は西巡す。

【孔熙先・范曄の反逆で義康流罪】

■［孔熙先は義康に恩義あり］初め，魯國の**孔熙先**は博く文史を學び，兼ねて數術に通じ，縱横の才志有り。員外散騎侍郎と為り，時の知る所と為らず，憤憤として志を得ず。父の**默之**は廣州刺史と為り，贓（隱藏）を以て罪を獲る。大將軍の彭城王の**義康**は為に救解し，免かるるを得る。**義康**が豫章に遷るに及び，**熙先**は密かに報效を懷う。且つ以為らく、

「天文、圖讖には，**帝**は必ず非道を以て晏駕し，骨肉は相い殘なうに由る。江州は應に天子を出すべし」と。**范曄**が志意不滿なるを以て，引いて與に同じく謀らんと欲す，而るに**熙先**は素より**曄**の重き所と為ら

ず。太子の中舍人の**謝綜**は，**曄**之甥也，**熙先**は身を傾けて之に事える。**綜**は**熙先**を引いて**曄**と相い識らしむ。

■［孔熙先は范曄に蜂起計画を迫る］**熙先**の家は財に饒(ゆたか)なり，數々(しばしば)**曄**と博（賭博）し，故(ことさ)らに拙行(わざと負け)を為し，物を以て之を輸(いた)す。**曄**は既に其の財を利とし，又た其の文藝を愛し，是に由りて情好は款洽(かんこう)（親しく交わる）す。**熙先**は乃ち從容として**曄**を說いて曰く、

「大將軍（義康）は英斷聰敏にして，人神の屬する攸(ところ)なり，職を南垂に失い（豫章に遷されるをいう），天下は憤怨す。小人（自分）は先君の遺命を受け，死を以て大將軍之德に報いんとす。頃(このごろ)人情は騷動し，天文は舛錯(せんさく)（叛き誤る）す，此れ謂う所の『時運之至るや，推移する可からざる』の者也。若し天人之心に順(したが)い，英豪之士に結び，表裡相い應じ，肘腋（身近な所で起こる災禍）に發し，然る後に我と異なるを誅除して，明聖を崇奉し，天下に號令すれば，誰か敢て從わずや！小人は請う、七尺之軀(み)，三寸之舌を以て，功を立て事を立て而して諸(これ)を君子に歸せん，丈人は以て何如(いかん)と為すや？」

曄は甚だ愕然とす。**熙先**は曰く、

「昔**毛玠**は節を**魏武**に竭(つく)し，**張溫**は議を**孫權**に畢(つく)す，彼の二人者(は)，皆な國之俊乂(しゅんかい)（賢人）にして，豈に言行は玷缺(てんけつ)（玉が傷つき欠ける）し，然る後に禍辱に至る哉！皆な廉直(れんちょく)（正直）勁正(けいせい)を以て，久しく容れられるを得ず。丈人之本朝に於けるや，二主（魏武・孫權）より深からず，人間の雅譽（声望良き）は，兩臣（毛玠・張溫）に過ぎ，讒夫(ざんぷ)（中傷したり悪口を言う連中）は目を側(そばだ)てること，日為(た)ること久しき矣，肩を比(ならべ)（並）べて競逐すれば，庸(なん)ぞ遂げる可けん乎！近者(ちかごろ)は殷鐵（前巻十七年にあり）の一言而して**劉班**（漢の順帝の大夫）は首を碎き，彼は豈に父兄之仇（続は讐），百世之怨みなる乎？爭う所は榮名の勢利は先後之間に過ぎざる耳。其の末に及びて也，唯だ之を陷(おとしい)ること深からず，之を發するに早からざるを恐る。戮は百口に及ぶも，『猶ほ未だ厭(あ)かず。』と曰う。是れ寒心悼懼(とうく)（びくびくする）と為す可く，豈に書籍の遠き事に也る哉！今大勳を建て，賢哲を奉じ，難地（続は無し）を易に圖り，安を以て危に易え，厚利を享け，鴻名を收め，一旦包舉し而して之を有(たも)つは，(7-281p) 豈に棄置して而して取らざる可けん哉！」

曄は猶ほ疑いて未だ決せず。**熙先**は曰く、

「又た此に於いて過ぎる者有り，愚は則ち未だ敢えて道(い)はざる耳。」

曄は曰く、

「何を謂う也？」

熙先は曰く、

「丈人は弈葉（曄の曾祖・法、祖寧、父泰は皆名行あり）清通（精通）し，而るに姻を帝室に連ねるを得ず，人は犬豕を以て相遇するに及び，而るに丈人は曾て之を恥じずして，之が為に死せんと欲す，亦た惑わず乎！」

曄の門は內行無く，故に**熙先**は此を以て之を激す。**曄**は默然として應えず，反意は乃ち決す。

■**曄**は**沈演之**と並びて**帝**の知る所と為り，**曄**は先ず至れば，必ず**演之**を待ちて俱に入り，**演之**が先ず至れば，嘗(つね)に獨り引（引見）か被(こうむ)れ，**曄**は此を以て怨みと為す。**曄**は累(しきり)に**義康**の府佐を經て，中間は**義康**に罪を獲る。**謝綜**及び父の**述**は，皆な**義康**の厚き所と為る，**綜**の弟の**約**は**義康**の女を娶る。**綜**は**義康**の記室參軍と為り，豫章より還り，**義康**の意を**曄**に申し，晩隙を解きて，復た往好を敦(あつ)くするを求める。大將軍の府史の**仲承祖**は，**義康**に寵有り，**熙先**の謀(はかりごと)有るを聞き，密かに相い結納する。丹陽尹の**徐湛之**は，素より**義康**の愛する所と為り，**承祖**は此に因りて**湛之**に結事し，密計を以て告げる。道人の**法略**、尼の**法靜**，皆な**義康**の舊恩に感じ，並（続は竝）びて**熙先**と往來す。**法靜**の妹の夫の**許曜**は，隊を領して台（江南・禁中）に在り，內應を為すを許す。**法靜**は豫章に之き，**熙先**は付するに箋書を以てし，圖讖を陳說す。是

に於いて密かに相い署置し，及ち素より不善とする所の者は，並びて死目（死地に赴く）に入る。**熙先**は又た弟の**休先**をして檄文を作らしめて，稱す、

「賊臣の**趙伯符**（領軍将軍、罪を着せるため）は兵を肆（ほしいまま）にして蹕（ひつ）（天皇の行幸。鹵簿）を犯し，禍いは儲宰に流れる。**湛之**、**曄**等は命を投げて戈を奮い，即日**伯符**の首及び其の黨與を斬らん。今護軍將軍の**臧質**を遣わして璽綬を奉じて彭城王を迎え位を辰極（北極星）に正すべし。」

熙先は以て為す、

「大事を舉げるには宜しく須らく**義康**之旨を以て衆を論すべし」

と，**曄**は又た詐りて**義康**が**湛之**に與えるの書を作り，

「君側之惡を誅さ令めん」

と同黨に宣示す。

■［帝誅殺直前に徐湛之が密告］**帝**之武帳岡に燕（くつろぐの意味）する也，**曄**等は其の日を以て作亂を謀る。**許曜**は**帝**に待し，刀を扣（ひ）（微かに抜く）きて**曄**に目くばせし，**曄**は敢えて仰ぎ視ず。俄に而して座は散じ，**徐湛之**は事の濟さざるを恐れ，密かに其の謀を以て**帝**に白（もう）す。**帝**は**湛之**をして具に本末を探取せしめ，其の檄書を得て，姓名を選署し，之を上（たてまつ）る。**帝**は乃ち有司に命じて收掩し窮治せしむ。其の夜，**曄**を呼びて客省（典客令の待合室）に置き，先ず外に於いて**綜**及び**熙先**の兄弟を収め，皆な款服（罪を認め服す）す。**帝**は使いを遣わして**曄**を詰問せしめ，**曄**は猶ほ隠し拒む。**熙先**は之を聞き，笑って曰く、

「凡そ處分、符檄、書疏は，皆な**范**の造る所なり，雲（続は云）何ぞ今に於いて方に此くの如く抵蹋（ていとう）（抵抗して白状せず）するを作（な）す邪？」

帝は**曄**の墨跡を以て之に示し，乃ち具に本末を陳べる。

■［熙先は教訓と為すを求める］明くる日，仗士（兵丈を取る士）は廷尉に送付す。**熙先**は風を望みて款（まこと）を吐き，辭氣は橈（たわ）まず。(7-282p) **上**は其の才を奇として，人を遣わして之に慰め勉めて曰く、

「卿之才を以て而も集書省に滯り，理は應に異志有るべし，此くは乃ち我は卿に負（そむ）く也。」

又た前の吏部尚書の**何尚之**を責めて曰く、

「**孔熙先**をして年は將に三十にならんとするに散騎郎に作（な）ら令む，那して賊を作（な）さざるや！」

熙先は獄中に於いて**上**書して恩を謝し，且つ圖讖を陳べ，深く骨肉之禍を以て**上**を戒め，曰はく、

「願はくは且（df⓪）く遺棄（続は弃）する勿かれ，之を中書に存すべし。若し囚死之後，或は追錄す可くんば，庶（こいねが）わくは九泉之下，少く釁（過失）責を塞がん。」

■［范曄の生きる望み］**曄**は獄に在り，詩を為（つく）りて曰く、

「嵇（続は嵇）生（嵇康）の琴（晉の文王に殺される、士に臨みて日影を傍観し琴を弾く）無しと雖も，庶わくは夏侯（夏侯玄）の色（晉の景王に殺される時、顔色変えず）に同じからん。」

曄の本意は入獄して即に死すを謂い，而るに**上**は其の獄を窮治し，遂に二旬を經て，**曄**は更に生きる望み有り。獄吏は之に戲れて曰く、

「外に傳えるに詹事（曄は太子の詹事）は或いは當に長く系（続は繋）がるべし。」

曄は之を聞き，驚喜す。**綜**、**熙先**は之を笑って曰く、

「詹事の疇昔（むかし、また）は袂を攘（はら）い目を瞋（いか）らせて，馬を躍らせて顧盼（目元が美しい）し，自ら一世之雄と為す。今擾攘（じょうじょう）（乱）紛紜（ふんうん）（騒動）として，死を畏れるは乃ち爾（しか）り！設（たとい）令賜うに性命を以てするとも，人臣として主を圖り，何の顔（かんばせ）ありてか以て生存する可きや！」

■［曄、綜、熙先はみな誅殺］十二月，乙未（１１日），**曄**、**綜**、**熙先**及び其の子弟、黨與は皆な伏して

誅す。**曄**の母は市（市で死刑にする）に至り，涕泣して**曄**を責め，手を以て**曄**の頸を擊ち，**曄**は色怍（は）じず。妹及び妓妾は來たりて別れ，**曄**は悲涕流漣す。**綜**は曰く、
「舅は殊に夏侯の色に及ばす。」
曄は涙を収めて而して止む。
■**謝約**は逆謀に預からず，兄の**綜**が**熙先**と游ぶを見て，常に之を諫めて曰く、
「此の人は事を輕んじ奇を好み，道に近からず，果鋭にして檢（束）無く，未だ與に狎れる可からず。」
綜は從わずして而して敗れる。**綜**の母は子弟の自ら逆亂を蹈むを以て，獨り出でて視ず。**曄**は**綜**に語りて曰く、
「姉は今來たらず，人に勝ること多き矣。」
■**曄**の家を收籍するに，樂器服玩並（続は竝）びに皆な珍麗にして，妓妾は珠翠に勝（た）えず。母は居止單陋（ろう）（狭い）にして，唯だ一廚有りて樵薪を盛るのみ。弟子は冬は被る無く，叔父は單布衣なり。
■**裴子野**は論じて曰く、
「夫れ逸群之才有れば，必ず沖天（天上に高く飛ぶ）之據を思う。蓋俗（世俗を蓋（おお）う）之量は，則ち常均（なお平常）之下に憤る。其の能く之を守るの道を以てし，之を將（行う）するに禮を以てし，殆んど鮮（すくな）しと為す乎！**劉弘仁**（劉湛）、**范蔚宗**（范曄）は皆な志に忤（おご）りて而して權を貪り，才に矜りて以て逆に徇う，累葉（代々）の風素は，一朝に而して隕ちる。向（続は嚮）之所謂（いわゆる）智能は，翻えって身を亡ぼす之具と為る矣。」
徐湛之は陳べる所多く盡くさず，**曄**等の辭の連引する所と為り，**上**は赦して問わず。**臧質**は，**熹**之子也，先に徐、袞二州刺史と為り，**曄**と厚く善し。**曄**が敗れるや，以て義興太守と為す。(7-283p)
■［彭城王義康は連座して蟄居］有司は奏す、
「彭城王の**義康**の爵を削り，收めて廷尉に付して罪を治めん。」
丁酉（１３日），詔して**義康**及び其の男女を免じて皆な庶人と為し，屬籍を絶ち，徙して安成郡に付す。寧朔將軍の**沈邵**を以て安成の相と為し，兵を領して防ぎ守らしむ。**邵**は，**璞**之兄也。**義康**は安成に在り，書を讀み，淮南の厲王の**長**（漢の高祖劉邦の七男の淮南厲王劉長は柴奇の謀反で流罪、絶食死、子は全て列侯に封ぜらる）の事を見，書を廢して歎じて曰く、
「古より此くは有り，我は乃ち知らず，罪を得るは宜（うべ）なりと為す也。」
■庚戌（２６日），前豫州刺史の**趙伯符**を以て護軍將軍と為す。**伯符**は，**孝穆皇后**（高祖の母趙氏、弟は倫之）之弟の子也。
■初め，江左の二郊（祭の名）に樂無く，宗廟には登歌（神祭りの歌）有りと雖も，亦た二舞（文舞・武舞）無し。是の歳，南郊に始めて登歌を設ける。

●［諸州の僑置］魏の安南、平南府（二将軍の府）は書を袞州に移して，以て
「南國、諸州を僑（外地に仮住まい）置して多く北境の名號を濫ず」と。又た、
「具區（呉の藪の名、太湖）に遊獵せんと欲す。」
袞州は答えを移して曰く、
「必ず若し土に因りて州を立つべしならば，則ち彼に徐（州）、揚（州）を立てるは，豈に其の地有るや？復た具區に遊獵し，化を南國に觀んと欲するを知る。館を開き邸を飾り，則ち有司は存す。**呼韓**(漢に降った匈奴の呼韓邪単于?)は漢に入り，厥（そ）の儀は未だ泯（ほろ）びず，饋餼（きき）（客に餉る食事や米）之秩（秩米）は，毎に豐厚を存せん。」

太祖文皇帝中之中元嘉二十三年（丙戌，公元４４６年）

■春，正月，庚申（６日），尚書左僕の**射孟顗**は罷る。

●［魏主は東雍州の薛永宗、杏城の蓋吳を破る］戊辰（１４日），**魏主**の軍は東雍州に至り，**薛永宗**の壘に臨み，**崔浩**は曰く、

「**永宗**は未だ**陛下**の自ら來たるを知らず，衆心は縱（ほしいまま）に弛む。今北風は迅疾にして，宜く急に之を擊つべし。」

魏主は之に從い，庚午（１６日），其の壘を圍む。**永宗**は出でて戰い，大敗し，家人と與に皆な汾水に赴きて死す。其の族人の**安都**は先に弘農に據る，城を棄てて來たりて奔（続は犇）る。辛未（１７日），**魏主**は南に汾陰に如き，河を濟り，洛水橋（陝西省關中道華陰県の洛水、現・渭南市華陰市）に至る。**蓋吳**の長安の北に在るを聞き，**帝**は渭北の地を以て穀草無く，渭を渡りて南せんと欲し，渭を循にして而して西す。以て**崔浩**に問う，對えて曰く、

「夫れ蛇を擊つ者は先ず其の首を擊ち，首破れて則ち尾は掉（ふる）う能わず。今は**蓋吳**の營は此れを去ること六十里，輕騎が之に趨けば，一日にして到る可く，到りて則ち之を破るは必ずなり矣。**吳**を破り，南に長安に向かうは亦た一日に過ぎず，一日之乏しきは，未だ傷有るに至らず。若し南道に從えば，則ち**吳**は徐（おもむ）ろに北山に入り，猝（にわか）に未だ平らぐ可からざらん。」

帝は從わず，渭南より長安に向かい。庚辰（２６日），戲水に至る。**吳**の衆は之を聞き，悉く散じて北地山（魏書世祖紀に山の字なし、崔浩傳に地の字なし）に入り，軍は獲る所無し。**帝**は之を悔いる。

●［魏主は長安に入る、蓋吳は宋に救援を求める］二月，丙戌（２日），**帝**は長安に至り，丙申（１２日），執屋（ちゅうしつ）（執の下に皿の字）に如き，陳倉を歴て，還り，雍城に如く。過ぐる所の民、夷の**蓋吳**と通謀する者を誅す。**乙拔**等の諸軍は**蓋吳**を杏城に於いて大破し，■**吳**は復た遣使して上表して援を求める。(7-284p)

詔して**吳**を以て都督關、隴諸軍事、雍州刺史、北地公と為す。雍、梁二州をして兵を發し境上に屯し，**吳**の聲援と為さ使む。遣使して**吳**に印一百二十一紐を賜って，**吳**をして宜しきに隨いて假授せ使む。(印綬 121 を与える、假授の事例)

■［林邑王の范陽邁の去就］初め，林邑（ベトナム）王の**范陽邁**は，遣使して入貢すると雖も，而して寇盜して絶えず，使貢も亦た薄陋（ろう）（狹）なり。**帝**は交州刺史の**檀和之**を遣わして之を討たしむ。南陽の**宗慤**は，家は世々（叔父の炳は高尚で仕えず、諸子羣從は皆古典を愛好）儒素なるも，**慤**は獨り武事を好み，常に言う、

「願はくは長風に乘りて萬里の浪を破らん」。

和之の林邑を伐つに及び，**慤**は自ら奮って從軍を請う。詔して**慤**を以て振武將軍と為し，**和之**は**慤**を遣わして前鋒と為す。**陽邁**は軍の出ずると聞き，遣使して上表し（続には無し），掠める所の日南（安南北部）の民を還し，金一萬斤，銀十萬斤を輸（おく）らんと請う。**帝**は**和之**に詔して、

「若し**陽邁**が果たして款（続は欵）誠有れば，亦た其の歸順を許す可し」

和之は朱梧（漢以来の日南郡の治所）の戍に至り，府（交州刺史の府）の戶曹參軍の**姜仲基**等を遣わして**陽邁**に詣らしめ，**陽邁**は之を執る。**和之**は乃ち進軍して林邑の將の**范扶龍**を區粟城に於いて圍む。**陽邁**は其の將の**范毘沙達**を遣わして之を救い，**宗慤**は兵を潛めて**毘沙達**を迎擊し，之を破る。

●［魏主は崔浩と仏教弾圧］**魏主**は**崔浩**と皆な**寇謙之**を信重し，其の道（道教）を奉る。**浩**は素より佛法を

喜ばず，毎に**魏主**に言って，以て為す、
「佛法は虚誕にして，世に害を費やすと為し，宜しく悉く之を除すべし。」
魏主の**蓋吳**を討つに及び，長安に至りて，佛寺に入り，沙門は從官に酒を飲ます。從官は其の室に入り，大いに兵器あるを見，出でて以て**帝**に白す。**帝**は怒りて曰く、
「此れは沙門の用いる所に非らず，必ず**蓋吳**と通謀し，亂を為さんと欲す耳！」
有司に命じて闔寺の沙門を案誅せしめ，其の財産を閲し，大いに釀具を得て及び州郡の牧守、富人の寄する所の藏物は萬を以て計り，又た窟室を為りて以て婦子を匿す。**浩**は因りて**帝**に悉く天下の沙門を誅し，諸々の經像を毀すを說き，**帝**は之に從う。**寇謙之**は**浩**と固く爭い，**浩**は從わず。先ず盡く長安の沙門を誅し，經像を焚毀し，並（続は幷）せて留台（太子の居る平城）に敕して四方に令を下し，一に長安の法を用いしむ。詔して曰く、
「昔後漢の荒君は，邪偽を信じ惑い以て天常を亂す，古より九州之中は，未だ嘗て此れ有らず。夸誕（真実でないことを、大げさに言いたてる）大言し，人情に本かず，叔季（末世）之世は，焉に眩まざる莫きかな。是に由りて政教は行われず，禮義は大きく壞れ，九服之内は，鞠（窮）まりて丘墟と為る。**朕**は天緒を承けて，偽を除いて真を定め，羲、農（伏羲・神農）之治を復さんと欲す。其の一切は蕩除し，其の蹤跡を滅せん。今より已後，敢えて胡神に事え及び形像、泥人、銅人を造る者有れば門誅せん。非常之人有り，然る後に能く非常之事を行う，**朕**に非らざれば孰（誰）か能く此の歴代之偽物を去らんや？」(7-285p)
有司は征鎮諸軍、刺史に宣告して，諸々の浮圖の形像及び胡經有れば，皆な擊破焚燒し，沙門は少長と無く悉く之を坑にせしむ。
●［仏教に親しい太子は緩和策］太子の**晃**は素より佛法を好み，屢々諫めても聽かず，乃ち詔書を宣べるを緩め，遠近をして豫め之を聞き，各々計と為すを得しむ。沙門は多く亡げて匿れて免かるるを獲，或は經像を收藏し，唯だ塔廟の魏の境に在る者は復た孑遺（残余）無し。
●**魏主**は長安の工巧二千家を平城に徙す。還りて，洛水に至り，軍を分けて**李閏**の叛羌を誅す。
●［太原の顔白鹿と青州刺史の杜驥］太原の**顔白鹿**は私に魏境に入り，魏人の得る所と為り，將に之を殺さんとするや，詐りて雲（続は云）わく青州刺史の**杜驥**は其をして誠を歸せ使むと。魏人は**白鹿**を送りて平城に詣る，**魏主**は喜んで曰く、
「我の外家（魏主の母は杜氏）也。」
崔浩をして書を作り**驥**に與え使め，且つ永昌王の**仁**、高涼王の**那**に命じて兵を將いて**驥**を迎え，冀州刺史の**申恬**を歴城に攻めしむ。**杜驥**は其の府の司馬の**夏侯祖歡**等を遣わして兵を將いて歴城を救わしむ。魏人は遂に袞、青、冀三州を寇して，清東（清水の東）に至り而して還る。殺掠は甚だ衆にして，北邊は騒動す。
■［何承天の魏寇対策の上表］**帝**は魏寇を以て憂と為し，群臣に咨り訪ねる。御史中丞の**何承天**は上表して，以て為す、
「凡そ匈奴に備える之策は，二科に過ぎず。武夫は征伐之謀を盡くし，儒生は和親之約を構（続は講）えるなり。今若し**衛**、**霍**（衛青・霍去病）を追蹤せんと欲すれば，大いに淮、泗に田し，内に青（州）、徐（州）を實たし，民をして贏（余り）儲有り，野に穀を積む有ら使め，然る後に精卒十萬を發し，一舉に夷を蕩するに非らざるよりは，則ち為すに足らざる也。若し但だ軍を遣わして追討し，其の侵暴に報いんと欲せば，則ち彼は必ず輕騎にして奔（続は犇）走し，肯えて會戰せず。徒らに巨費を興こすのみ，彼を損せず，報復之役は，將に遂に已む無し。斯れ策之最も末なる者也。邊を安んじ固く守るは，計に於いて長ぜりと為す。

臣は竊かに以えらく、**曹**、**孫**（曹操・孫権）之霸は，才は均しく敵を智り，江、淮之間は，居らざること各々數百里。何の者か？斥候之郊は，耕牧之地に非らざれば，故に壁を堅くして野を清め以て其の來たるを俟ち，甲を整え兵を繕い以て其の弊に乘らんとす。民を保ち境を全うするは，此の塗を出でず（他に方法無し）。要は而して之に歸すれば，其の策に四有り。一に曰わく遠きを移して近くに就ける。今青（州）、兗（州）の舊民及び冀州の新附にして，界首に在る者は三萬餘家なり，悉く徙して大峴之南に置き，以て內地を實たす可し。二に曰わく多く城邑を築き以て新徙之家を居き，其の經用を假し，春夏は佃牧し，秋冬は入りて保す。寇之至る時は，一城に千家，戰いに堪える之士は，二千を下らず，其の餘の羸弱は，猶ほ能く陴（城壁）に登りて鼓噪し，群虜三萬に抗するに足らん矣。三に曰わく車牛を纂（集）偶（耕牛）し以て糧械（食料・器械）を載せる。千家之資を計るに，五百耦牛を下らず，車は五百兩を為り，(7-286p) 參合して鉤を連ねて以て其の衆を衛る。設し城をして固む可からざら使めば，平行して險に趨けば，賊の幹（続は干）す能わざる所なり，急有りて征（続は徵）發すれば，信宿にして聚む可し。四に曰わく丁を計り仗を課す。凡そ戰士は二千，其の便能に隨い，各自に仗有り，素より服習する所にして，銘刻すること己に由り，還りて保つには之を庫を輸し，出でて行くときは請うて以て自ら新たにする（器仗を請いて自ら研ぐ）。弓簳利鐵の，民の得ざる者は，官は漸を以て之を充たすべし。數年之內には，軍用は粗に備わる矣。近郡（南徐州の諸僑郡、三呉の近くの地域）之師は，遠く清、濟に屯するは，功費は既に重く，嗟怨は亦た深く，臣を以て之に料るに，未だ即きて彼の衆を用いる之易きに若かざる也。今民の利とする所に因りて，導いて而して之を帥いれば，兵は強く而して敵は戒めず，國は富み而して民は勞せず，隊伍を優復し，坐して糧廩を食する者に比すれば，同年に而して校ぶ可からず矣。」と。

●<u>［秦、益二州の混乱］</u>魏の金城の邊固（魏書世祖紀には邊冏、封勅文傳も邊冏、）、天水の**梁會**，秦と、益の雜民は萬餘戶と與に上邽の東城に據りて反し，攻めて西城に逼る。秦、益二州刺史の**封敕文**は拒みて之を卻（続は却）す。氐、羌の萬餘人，休官（108 巻晉孝武帝太元 17 年 392 年休官権千成居顕親自称秦州牧、雑夷部落名）、屠各（トルコ系匈奴の中心部族）の二萬餘人は皆な兵を起こして**固**、**會**に應じ，**敕文**は**固**を擊ち，之を斬り，餘衆は**會**を推して主と為し，**敕文**と相い攻める。

●夏，四月，甲申（１日），**魏主**は長安に至る。

■丁未（２４日），大赦す。

●<u>［仇池の反乱、魏の侵攻］</u>仇池人の**李洪**は衆を聚め，自ら言って、

「應に王たるべし。」

梁會は氐王の**楊文德**に救いを求め，**文德**は曰く、

「兩雄は並び立たず，若し我を須つ者ならば，宜しく先ず**洪**を殺すべし。」

會は**洪**を誘って之を斬り，首を**文德**に送る。五月，癸亥（１１日），**魏主**は安豐公の**閭根**を遣わして騎を帥いて上邽に赴かしめ，未だ至らず，**會**は東城を棄てて走る。**敕文**は先ず重塹を外に堀り，嚴兵して之を守る，格鬥して夜從り旦に至る。**敕文**は曰く、

「賊は生きるの路無きを知り，死を我に於いて致さば，多く士卒を殺傷し，未だ克つに易からざる也。」

乃ち白虎幡を以て**會**の衆に宣告する，

「降る者は之を赦さん」

と，**會**の衆は遂に潰える。兵を分けて追い討ち，悉く之を平らぐ。略陽人の**王元達**は衆を聚めて松多川（甘粛省渭川道泰安県、現・天水市泰安県）に屯し，**敕文**は又た討ちて之を平らぐ。

●［蓋吳は秦地の王と號す］**蓋吳**は兵を収めて杏城に屯す，自ら秦地王と號し，聲勢は復た振るう。**魏主**は永昌王の**仁**、高涼王の**那**を遣わして北道（魏軍の長安以北に屯す）の諸軍を督して之を討たしむ。

■［**檀和之は林邑王陽邁を討ち、逃亡**］**檀和之**等は區粟を拔き，**范扶龍**を斬り，勝ちに乘りて象浦（ベトナム北部の盧容浦。盧容県は秦の象郡象林県の地）に入る。林邑王の**陽邁**は國を傾けて來たりて戰い，具裝（馬甲）を以て象に被らせ，前後は際無し。**宗慤**は曰く、

「吾は外國に師子有りと聞き，百獸を威服す。」(7-287p)

乃ち其の形を制（製）し，象と相い拒ましむ，象は果たして驚き走り，林邑兵は大敗す。**和之**は遂に林邑に克ち，**陽邁**の父子は身を挺して走る。獲る所未だ名あらざる之寶は，勝げて計える可からず，**宗慤**は一に取る所無く，家に還る之日，衣櫛は蕭然とす。

■六月，癸未（１日）朔，日に之れ食有り。

●［**魏は蓋吳の竄逸に備える**］甲申（２日），魏は冀、相、定三州の兵二萬人を發し長安の南山の諸谷に屯せしめ，以て**蓋吳**の竄逸に備える。丙戌（４日），又た司、幽、定、冀四州の兵十萬人を發して畿上に塞圍を築かしめ，上谷に起こり，西に河に至る，廣縱は千里。

■**帝**は北堤（続は隄）を築き，玄武湖（臺の後ろにあり、玄武とす）を立て，華林園に景陽山を築く。

■［**杜坦を青州刺史、宋の人材登用問題**］秋，七月，辛未（２０日），散騎常侍の**杜坦**を以て青州刺史と為す。**坦**は，**驥**之兄也。初め，**杜預**之子の**耽**は，晉の亂を避け，河西に居りて，張氏（前涼）に仕える。前秦の涼州に克つや，子孫は始めて關中に還る。**高祖**の後秦を滅ぼすや，**坦**兄弟は**高祖**に從いて江を過ぎる。時に江東の**王**、**謝**の諸族は方に盛んにして，北人の晩く渡る者は，朝廷は悉く傖荒（南人は北人をいう）を以て之を遇し，復た人才の施いる可くと雖も，皆な清塗（重要な官職）を踐むを得ず。**上**は嘗て**坦**と**金日磾**（22 巻漢の武帝後二年に見える）を論じ，曰く、

「今復た此くの輩の人無きを恨む！」

坦は曰く、

「**日磾**は假に今の世に生まれるとも，馬を養うに暇あらず，豈に見知を辨ずるや！」

上は色を變じて曰く、

「卿は何の朝廷を量る之薄き也！」

坦は曰く、

「請う臣を以て之を言わん。臣は本より中華の高族なり，晉氏は喪亂し，涼土に播遷し，世業は相い承け，其の舊を殞さず。直に南に度るの早からずを以て，便ち荒傖を以て隔（差別）を賜う。**日磾**は，胡人にして，身は牧圉（牛馬、転じて牛馬の様に君主に使われる人か）為るに，乃ち超えて内侍に登り，名賢に齒列せり。聖朝は復た才を拔くと雖も，臣は恐らくは未だ必ずしも能くせざらん也。」

上は默然とす。

●［**陸俟は蓋吳の二叔を解放して誅殺**］八月，魏の高涼王の**那**等は**蓋吳**を破り，其の二叔を獲る。諸將は送りて平城に詣さんと欲し，長安の鎮將の**陸俟**は曰く、

「長安は險固にして，風俗は豪忮（豪彊忮恨）なり，平時は猶ほ忽せにす可からず，況んや荒亂之餘を承けるを乎！今**吳**を斬らざれば，則ち長安之變は未だ已まず也。**吳**の一身潛竄すれば，其の親信に非らずんば，誰か能く之を獲るや！若し十萬之衆を停めて以て一人を追うは，又た長策に非らず。私に**吳**の叔に，其の妻子を免じんことを許し，自ら**吳**を追わ使めんには如かず，之を擒にするは必ず矣。」

諸將は鹹な曰く、
「今賊黨の衆は已に散り，唯だ**吳**の一身は，何ぞ能く至る所あらんや？」
俟は曰く、
「諸君は毒蛇を見ざる乎！其の首を斷たざれば，猶ほ能く害と為る。**吳**の天性は凶狡，今若し脱するを得れば，必ず自ら王者は死なずと稱して，以て愚民を惑わし，患いと為るは愈々大なり。」
諸將は曰く、
「公の言は是(ぜ)也。但だ賊を得て殺さず，而して更に之を遣り，若し遂に往きて返らざれば，將に何を以て其の罪に任ずるや？」
俟は曰く、
「此の罪は我は諸君の為に之に任ぜん。」
高涼王の**那**も亦た**俟**の計を以て然りと為し，(7-288p)遂に二叔を赦し，與に期を刻んで而して之を遣る。期に及び，**吳**の叔は至らず，諸將は皆な**俟**を咎め，**俟**は曰く、
「彼は之を伺うに未だ其の便を得ざる耳，必ず負(そむ)かざる也。」
後數日にして，**吳**の叔は果たして**吳**の首を以て來たる。傳えて平城に詣る。永昌王の**仁**等は**吳**の餘黨の**白廣平**、**路那羅**等を討ちて，悉く之を平らぐ。**陸俟**を以て内都の大官と為す。

●[**陸俟は安定の劉超を奇策討伐**]會々(たまたま)安定の盧水胡**の劉超**等は衆萬餘人を聚めて反し，**魏主**は**俟**の威恩の關中に於いて著(あらわ)るを以て，復た**俟**に都督秦、雍二州諸軍事を加え，長安に鎮せしむ。**俟**に謂って曰く、
「關中は化を奉じること日淺く，恩信は未だ洽(あまね)かならず，吏民は數々逆亂を為す。今**朕**は重兵を以て卿に授ければ，則ち**超**等は必ず同心して協力し，險に據りて守るを拒み，未だ攻めるに易からず也。若し兵少ければ，則ち賊を制する能わず，卿は當に自ら方略を以て之を取るべし。」
俟は乃ち單馬にて鎮に之く。**超**等は之を聞き，大いに喜び，**俟**を以て能く為す無しと為す也。
俟は既に至り，成敗を以て論(さと)し，誘いて**超**の女を納れ，與に姻戚と為りて以て之を招く。**超**は自ら其の衆を恃み，猶ほ降る意無し。**俟**は乃ち其の帳下を帥いて親(みずか)ら往きて**超**を見，**超**は人をして逆え使め**俟**に謂って曰く、
「從者は三百人を過ぎれば，當に弓馬を以て相い待つべし。三百人に及ばざれば，當に酒食を以て相い供すべし。」
俟は乃ち將に二百騎にて**超**に詣る。**超**の備えを設けるは甚だ嚴にして，**俟**は酒を縱(ほしいまま)にして醉い盡くして而して還る。之頃(しばらく)して，**俟**は復た敢死の士五百人を選んで出でて獵(かり)し，因りて**超**の營に詣りて，約して曰く、
「機を發すること當に醉いを以て限りと為すべし。」
既に飲み，**俟**は陽(いつわ)りて醉い，馬に上りて大呼し，**超**の首を手ずから斬る。士卒は聲に應じて縱擊し，殺傷は千數，遂ら之を平らぐ。**魏主**は**俟**を征して還らしめ，外都の大官と為す。
●是の歳，吐谷渾は復た舊土（西から戻る）に還る。

平成 30 年 12 月 17 日	原文	12101 文字
令和 2 年 2 月 15 日	翻訳終了	20920 文字
令和 2 年 9 月 11 日	完訳完了	24395 文字
令和 3 年 8 月 12 日	書下し完了	24837 文字